



野上在住 中島正明さん

野上地区で黒毛和牛（四等級以上常陸牛）を650頭肥育しています。また、諸沢地区では私の父が300頭肥育していることで、計950頭を肥育していることになります。最近、食に対する安全・安心が損なわれる事件が多数報道されていますが、私たちも数年前、狂牛病による価格の急激な変動、風評被害に悩まされました。その教訓を活かし、国が牛を個体識別番号で管理することにより牛の履歴が消費者に公表されるようになりました。その結果、スーパー等の生肉売り場で、携帯電話や売り場設置の端末を使い、出生年月日や飼養場所の履歴などをその場で確認した後、購入することができるようになりました。是非、ご利用いただければと思います。これからも、消費者が安心して食べることでできる牛肉を、家族、社員とともに生産していきたいと思えます。

門井地区で組立式舞台を調査・公開

去る9月25日、御前山支所敷地内のトレーニングセンターに、門井民俗資料保存会によって、地区に持ち伝えられてきた組立式舞台の部材とすべての道具が運び出され、2日間にわたって歴史民俗資料館協力のもと調査が行われました。

27日には、それらの道具とともに門井地区に関わるその他の史料も展示され、見学に訪れた300人を超える人々は、はじめて公開された文化財に感嘆の声を上げていました。西塩子に隣接する門井に組立式舞台があることは早くから知られていましたが、すべての道具を持ち出して調査を行ったのは今回が初めてです。



▲舞台道具を展示した様子

●門井の舞台の概要

今回の調査では、舞台そのものの構造と規模が判明しました。下小瀬と下檜沢の舞台については、主に舞台道具のみの調査に留まり、構造等について報告されていたのは西塩子の舞台のみでした。西塩子の舞台間口は最大で7間ですが、回り舞台こそないものの、門井の舞台は2間半の部材を組み合わせた最大7間半もの大きなもので、構造は西塩子の舞台と全く同じでした。花道は最長で5間です。舞台を飾る道具の種類も、本床（チョボ）、襖、ランマ、ケコミ、大幕、水引幕など、市内に残る他の舞台と共通しています。人形浄瑠璃の道具も少量ながら残っていました。門井の人々が一座を組んで行っていたのでしょう。



▲舞台道具の運び出し

門井の舞台道具で特徴となっているのが、紙製の背景幕が大量に残っていたことで、舞台の貸し出しに当たり、道具運搬の軽量化を図ったものとも考えられます。門井の舞台がいつごろ作られたかは明らかではありませんが、今回の調査で、弘化、安政、慶応といった幕末の年号の墨書が確認されたことから、この頃には舞台を組み立て、芝居を楽しんでいたようです。

水戸藩内は幕末の争乱でたいへんな混乱に陥っていた時期ですので、とても意外な感じですね。

●今後の史料発見と地域の対応に期待

西塩子の回り舞台では、舞台や芝居に関する古文書の存在が、調査を発展させ、舞台の価値を高めました。門井の舞台も、今回の調査で西塩子の舞台に劣らぬ貴重な文化財であることが明らかになりましたが、関連史料が地域で発見され、作られた時代や芝居興行の様子が判明されることを期待し、この舞台を地域でどのように活かして行くのか、行きたいのか、地域の対応にも大いに期待しています。

広報 常陸大宮 11月 第50号

発行日 平成20年11月17日

編集・発行

常陸大宮市総務部情報政策課

〒319-2292

茨城県常陸大宮市中富町3135-6

☎ 0295(52) 1111 ☎ 0295(53) 6010

E-mail email@city.hitachiomiya.lg.jp

URL http://www.city.hitachiomiya.lg.jp/

□広報常陸大宮は、ホームページでも
ご覧になれます。